

# 京都大学 Web 戦略室の活動とその役割

小野 英理<sup>1)</sup>, 森村 吉貴<sup>1)</sup>, 元木 環<sup>1)</sup>, 岩倉 正司<sup>1)</sup>, 河地 裕介<sup>2)</sup>, 喜多 一<sup>1)</sup>

1) 京都大学 情報環境機構

2) 京都大学 企画・情報部

ono.eiri.2v@kyoto-u.ac.jp

## Activities and Roles of Website Planning Office in Kyoto University

Eiri Ono<sup>1)</sup>, Yoshitaka Morimura<sup>1)</sup>, Tamaki Motoki<sup>1)</sup>, Masaji Iwakura<sup>1)</sup>, Yusuke Kawachi<sup>2)</sup>, Hajime Kita<sup>1)</sup>

1) Institute for Information Management and Communication, Kyoto University

2) Planning and Information Management Department, Kyoto University

### 概要

京都大学では 2017 年から Web 戦略室を設置し、全学的にコーディネートされた情報発信体制の構築を開始した。本稿では現在までに当室が実施した活動を省察し、果たした役割を検討・整理した。そこで浮かび上がったのは「組織内にいる専門家集団」が「Web に関する相談窓口」「部署間連携支援と促進」「学内向け SD 活動の拠点」という役割が求められていること、それにより全学的に調整された Web サイトによる情報発信体制に向かいつつあることである。

## 1 はじめに

現在の大学等の教育研究機関において Web サイトは国内外の多様なステークホルダーに対する情報発信に不可欠である。しかし具体的な企画・運営は各部局・部署に委ねざるを得ないため全体としてコーディネートに欠き、運用面でも若手研究者等、特定の個人に負荷がかかるといった、Web サイトでの情報発信を行ううえでさまざまな課題がある。この状況を踏まえ、京都大学では「Web 戦略室」（以降「当室」とする）を 2017 年度に情報担当理事の下に設置し、学内経費 4 カ年分の措置を得て大学の Web サイトによる情報発信の体制構築と効率化に向けて事業を推進している。主たる活動は 2020 年度に予定している京都大学ホームページ（以降「大学 Web サイト」とする）の全面リニューアルである<sup>1)</sup>。また情報通信技術の専門的知識を持った人員を配置し学内の様々なニーズに対応している。

当室はスタート時に、大学 Web サイトリニュー

アルに向けて関連する課題をブレインストーミングによって抽出し、活動骨子としてまとめた。またそれら課題に対応するための体制として次の 4 チームを設置した。すなわち、1) 技術検討チーム、2) 業務プロセス検討チーム、3) コンテンツ・デザイン検討チーム、4) ユニバーシティ・アイデンティティ (UI) 検討チームである。各々のチームの定期的なミーティングに加え、全員が集まる会議体も設置し、多様な部署から人員が参加してリニューアルに向けた議論を進めている[1]。

本稿ではこれまでに当室が実施してきた業務を紹介し、その中でどのような役割を担ってきたかについて検討・整理する。

## 2 Web 戦略室のこれまでの主な活動

### 2.1 現行大学 Web サイトの改訂

当室は、現在大きく 2 つの活動に取り組んでいる。ひとつは現行大学 Web サイトの改訂である。大学 Web サイトの全面リニューアルの前段階として、コンテンツ群ごとに関係者で内容を見直し、作られた当時と状況が変わっているページや、全体の構成と不一致な形で継時的に蓄積されてきたページについて、階層、並び順の移動やグループ変更、ページ名の変更やコンテンツ概要の追記など改訂を行うものである。

<sup>1)</sup> 本学では学部・大学院、研究所・センター群などの部局やその下部組織である部署（例えば学科、専攻、研究室）等、重層的・分散的に多数の Web サイトで情報が提供されている。ここでのリニューアルの対象は大学本部が運営する Web サイト(www.kyoto-u.ac.jp)である。

例えば「研究」に関するコンテンツ群を改訂する場合、研究推進課、研究倫理・安全推進室、学術研究支援室、施設部プロパティ運用課、産官学連携課、広報課などが主に関係し、さらにわずかながら関係する部署を含めると多数の部署との調整が必要となる。そこで当室では、通常は顔を合わせない各部署から1名ずつ代表が出してもらい協議する場を設定した。その結果、部署間が連携して「研究」関連コンテンツ群を整理し、全体的にコーディネートされた構成を目指すという抜本的な見直しを実現した。

なお、この作業を通じて全面リニューアルの際に必要な情報である「必要だが不足しているコンテンツ」を明らかにする効果もあった。

また、本学の事務系職員は3年程度で部署を異動することが通例で、ページ作成当初の担当者が異動すると構築時の背景や意図が必ずしも適切に引き継がれないことが多い。このため、以後の担当者にとって更新業務がルーチン化しやすく、従ってサイト全体の構成を踏まえたコンテンツ作りが難しい状況が発生する、といった課題も明らかとなった。

## 2.2 次期大学 Web サイトへの全面リニューアル

もうひとつの活動は次期大学 Web サイトへの全面リニューアルである。現行の Web サイトは構築から5年を経て、内容のみならず、コンテンツマネジメントシステム (CMS) の技術面や広報業務のワークフロー改善なども必要としている。当室はリニューアル作業の中核として仕様策定と業者選定、プロジェクトマネジメントを担っている。仕様策定には技術検討チーム、業務プロセス検討チームが関与して進めた。

また情報・技術系教職員と広報課職員と密接に意見交換できる場を対面・オンラインの双方に設けることで、技術本位になり過ぎることを避け、ユーザー側の使いやすさや問題解決を重視したリニューアルを進めている。この体制で意見交換の場を持つことにより、日々進展する Web 関連技術をキャッチアップしながら、長期的に安定運用可能な大学 Web サイトの仕様を検討することや、ベンダーと技術専門用語や専門知識を含んだ高度なコミュニケーションをとることができている。

冒頭に述べた課題整理では多くの点を検討したが、まず導入する CMS に関して次のように課題を検討することにした (表 1)。こうした課題への対応方針に基づき、議論の結果、CMS は Drupal

を採用することとなった。現在は業者を入札で決定し、CMS 開発業務を進めている。

現状の課題	対応方針
オープンソースでも開発者が少ない場合にベンダーロックとなる	世界で利用の多いオープンソース CMS を利用する
コンテンツ量が多くなると動的ページの表示や編集画面の挙動が遅くなる	コンテンツ量が多くなってもパフォーマンスが低下しない CMS を利用する

表 1 CMS の課題への対応方針

## 2.3 ユニバーシティ・アイデンティティ(UI)の整備

大学の顔のひとつであり、広報活動の最前線を担う大学 Web サイトには、UI としてのビジュアル・アイデンティティ (VI) を反映させたいと考えている。京都大学にはこれまで学内外の広報に使用してきたエンブレムやロゴ、スクールカラーがあり、公式のものを定め構成員の利用に供してきた。しかし、エンブレム等の利用に関するガイドラインや使用例はなく、UI 検討チームが、Web サイト等での利用に配慮した再デザイン、使用例を掲載したガイドブックの制作など、本学 VI の整備を進めた[2]。今後は、整備された VI に基づき、大学 Web サイトのリニューアルへ適用を進める。

## 2.4 他大学の事例調査と学内への情報提供

当室では、室の諸活動に関連する他大学の先進事例の調査も行っている。事例調査報告は、当室関係者が広く集まる全体会議で行なっている。

また、本学では Web サイトの運用が学内各所で分散的に運用されていることから、Web サイトの制作や運用、VI の適用等に関連する情報を学内で共有することも重要である。当室では、学内隣接組織である学術情報メディアセンターと共催によるセミナーを開催した<sup>2</sup>。

講演では Web による大学の情報発信に造詣の深い講師を招き、大学における Web サイトの在り方や、学内から信頼される Web 担当部署の組織づくり、また前述の VI 整備などが取り上げられた。

<sup>2</sup> 学術情報メディアセンターセミナー「大学の価値を可視化する：ユニバーシティ・アイデンティティと Web サイトのデザイン」2018年9月6日開催  
[http://www.media.kyoto-u.ac.jp/accms\\_web/event/1489.html](http://www.media.kyoto-u.ac.jp/accms_web/event/1489.html)

主に学内構成員を参加対象と想定していたが、遠方の大学関係者や大学から発注を請け負う制作会社からも参加があり、こうしたテーマは、現在大学関係者にとって関心の高いものであることが伺えた。

## 2.5 学内からの Web サイト制作関連相談対応

当室設置後、学内の Web サイトや Web アプリケーションの制作を所掌する部署の事務職員からの Web 関連の相談が寄せられ、これに対応している。これまでの主な相談例は次のとおりである。

### 1) 欧州一般データ保護規則 (GDPR) への対応

GDPR 制定以後、学内で Web サイト運用を担当する複数の構成員から懸念および対応策についての相談が寄せられた。また大学 Web サイトとしても GDPR への対応の検討が必要であった。当室は関連情報の収集や意見交換会のセッティング、また法務室との相談などを行い、状況を注視しながら対応を検討し、助言している。

### 2) 教育研究活動データベース

本学教員の教育・研究に関するデータベースで、教育情報の公開業務、研究支援業務、および教員評価等に利用されており、大学 Web サイトからも閲覧することができる。現在情報環境機構によるリニューアルを予定しており、当室には他部局からのニーズをもとにした視点での意見が求められ、仕様策定や利活用に関して助言している。

### 3) 国際アドミッション支援オフィス

留学希望者に向けてスーパーバイザー探しや受験に必要な情報を提供する国際アドミッション支援オフィスが新たに設けられ、上記の目的のために Web サイトの構築を目指している。当室からはサイト設計やアクセス解析に関して助言している。

### 4) 災害時の学内情報収集

大規模災害時に学内の被災状況を収集するための Web ツールの整備が求められている。当室では担当部署のニーズをヒアリングして Web ツールを提案し、その使用方法を伝えている。

### 5) 部局サイトの支援

複数の部局から Web サイトの制作に関する相談を受けており、「リニューアルの必要性があるがどこから手をつけて良いか分からない」、または「適切な業者を教えて欲しい」という要望がある。当室からは各々の要望に応じて回答をしている。

## 3 Web 戦略室の役割

これまで述べてきた活動を俯瞰し、整理をしたところ、当室が学内で求められている役割が次のように浮かび上がってきた。

### 3.1 組織内にいる専門家集団

近年の大学は、大学図書館や情報系センターに加え、FD 等の教育改善、産学連携、環境・安全・衛生、学生支援、URA など専門性を有する組織が、大学の活動を支えることの必要性が高まっている。Web サイトによる広報や VI などのデザイン関連の活動も、単に外部発注すればよいというものではない。大学のニーズや状況を熟知し、かつ一定の専門性を持つ人員が大学組織内において、発注先とも対等に協議、交渉し、活動を進められる体制が必要である。当室はそのような専門的知識を持った人員で構成された部署であることが求められていると言える。

### 3.2 Web に関する相談窓口

京都大学内において、Web サイトでの広報は各部局・部署の所掌業務ごとに関連したニーズを持っている。大学広報の主担当である広報課の定常業務を始めとして、各部局、部署でも、留学生呼び込みのためのアクセス解析や、部局 Web サイトのリニューアルなど、「Web」というキーワードに関して多くの担当者が課題に直面している。しかし、事務系職員は 3 年程度で異動する人事体制であり、人材育成を行っていても、Web のような技術革新が進み、デザインの専門性も要する領域においては専門性が欠如しがちである。このため、課題について「何を、誰に聞けば良いのか分からない」という状況になりがちで、当室のような専門的知識を持った部署はある種の「駆け込み寺」のような機能を果たしている。GDPR など当室だけでは対処できない課題が持ち込まれることもあるが、さらに専門的な部署へ橋渡しをするなど、Web 関連業務の相談窓口となることができると考えている。

### 3.3 部署間連携支援と促進

大学 Web サイトの企画設置、運用は組織横断的な性格をもつ。当室が、業務内容ごとに構成される縦割りの組織では行えない横串を通した活動として各部署の担当者が協働できる場をつくることで、従来はルーチン業務または担当部署の所掌の

視点から作成されていたコンテンツについて、利用者の視点を勘案し全体的な最適化を踏まえて編集される学内環境が構築されるようになっている。

当室は、組織横断的な協業を支援するという意味で、部署間を超えた密接な意見交換の場を構築し、議論をリードする役割も求められている。当室のスタッフには、情報技術、あるいはデザインの専門性とは別の意味での能力構築が求められると言える。

### 3.4 Web 業務のスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動拠点

当室では、これまで大学では触れられることの少なかった Web に関するテーマでセミナーを開催することで、各部局・部署の Web 業務の担当者が集まり意見交換する場を設定した。

京都大学内で Web サイトは、部局・部署ごとに、いわば分散的・分権的にサイトを構築している。セミナー参加者からの感想でも、個人の努力に委ねられがちであった Web 業務について課題や知見を共有したいというニーズは高く、このような Web 業務に関する SD 活動を実施することで、個々人の業務効率化や全体の最適化につながると考えられる。今後も Web サイト制作、運営の具体的なスキルや知識に関するセミナー開催などの SD 活動の実施母体や情報集約される拠点としての役割が求められていると言える。

## 4 おわりに

当室は Web をキーワードにして大小さまざまな役割を果たしている。それによって、これまで個々の部局・部署、または個人の努力や献身に委ねられていたことで、足並みを揃えにくかった Web 関連業務が、全学的に連携のとれた情報発信となるよう、これまでよりコーディネートできる方向に向かいつつあると考えている。

今後も、本学 Web 戦略室の活動とその経過を発信していくとともに、同様の課題を抱えた他大学等との情報共有・連携にも寄与していきたい。

なお、本活動、特に業務プロセス検討チームおよび UI 検討チームにおける活動は、Web 戦略室の一員として参画している京都大学総務部広報課との協業によって実施しているほか、UI 検討チームにはビジュアルデザイン領域の専門家である京都市立芸術大学の辰巳明久教授にアドバイザーとして加わっていただき進めている。

## 参考文献

- [1] 元木環、岩倉正司、河地裕介、小野英理、喜多一、大学 Web サイトリニューアルに向けた課題整理と体制構築、大学 ICT 推進協議会 2018 年度年次大会、2018.
- [2] 京都大学 Web 戦略室ユニバーシティ・アイデンティティ検討チーム、京都大学ビジュアル・アイデンティティガイドブック、2018.